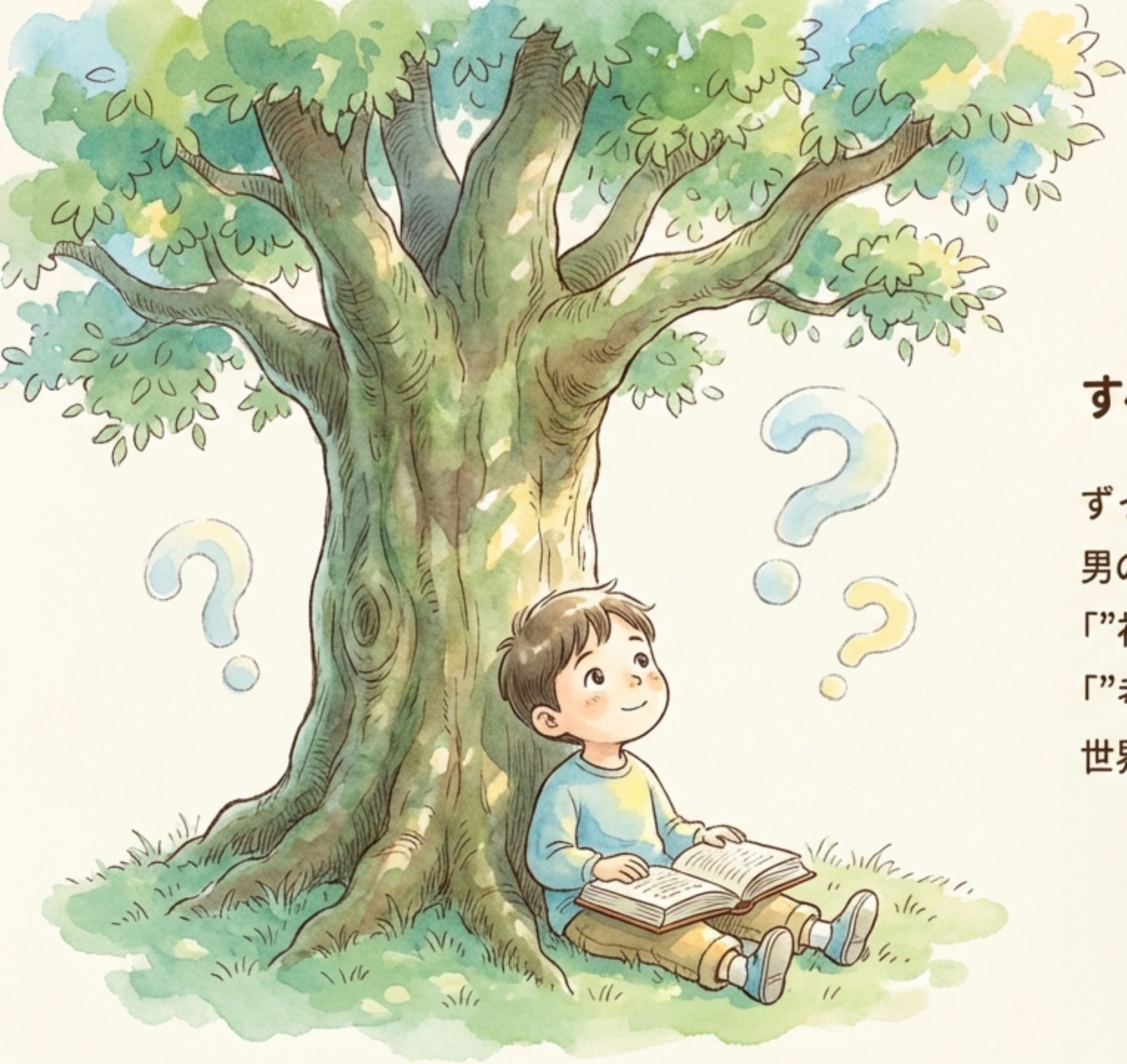


先生のふしぎをさがす大冒険

「みんなが幸せになるルール」をさがす物語

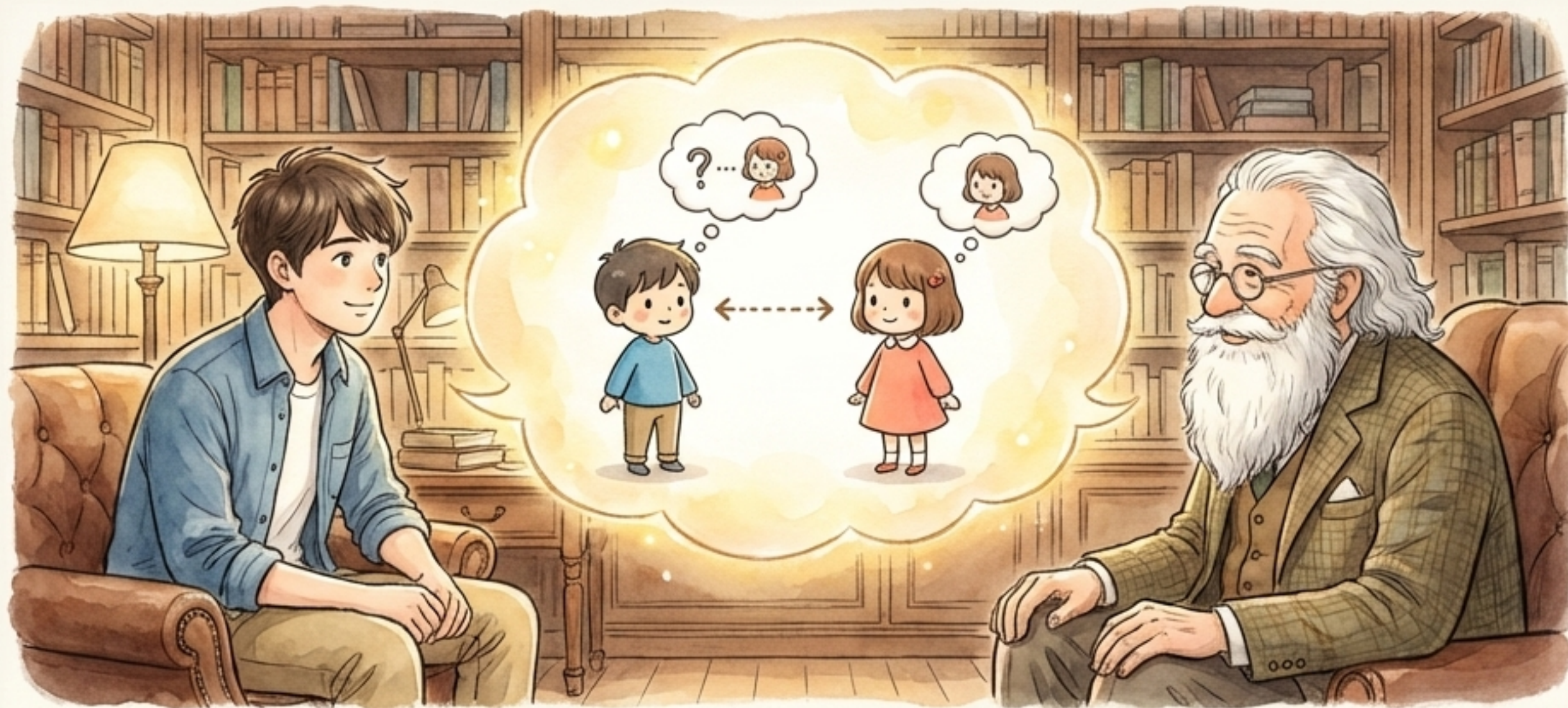




すべてののはじまりは、ひとつの「ふしぎ？」

ずっと昔、本を読むのが好きな男の子がいました。
男の子は、いろいろなことを考えるのが大好きでした。
「”社会”って、なんだろう？」
「”考える”って、どういうこと？」
世界は、ふしぎなことでいっぱいでした。

最初の発見！「ゲーム理論」という宝物



男の子は大きくなって大学へ行きました。そこで、やさしい先生に出会います。

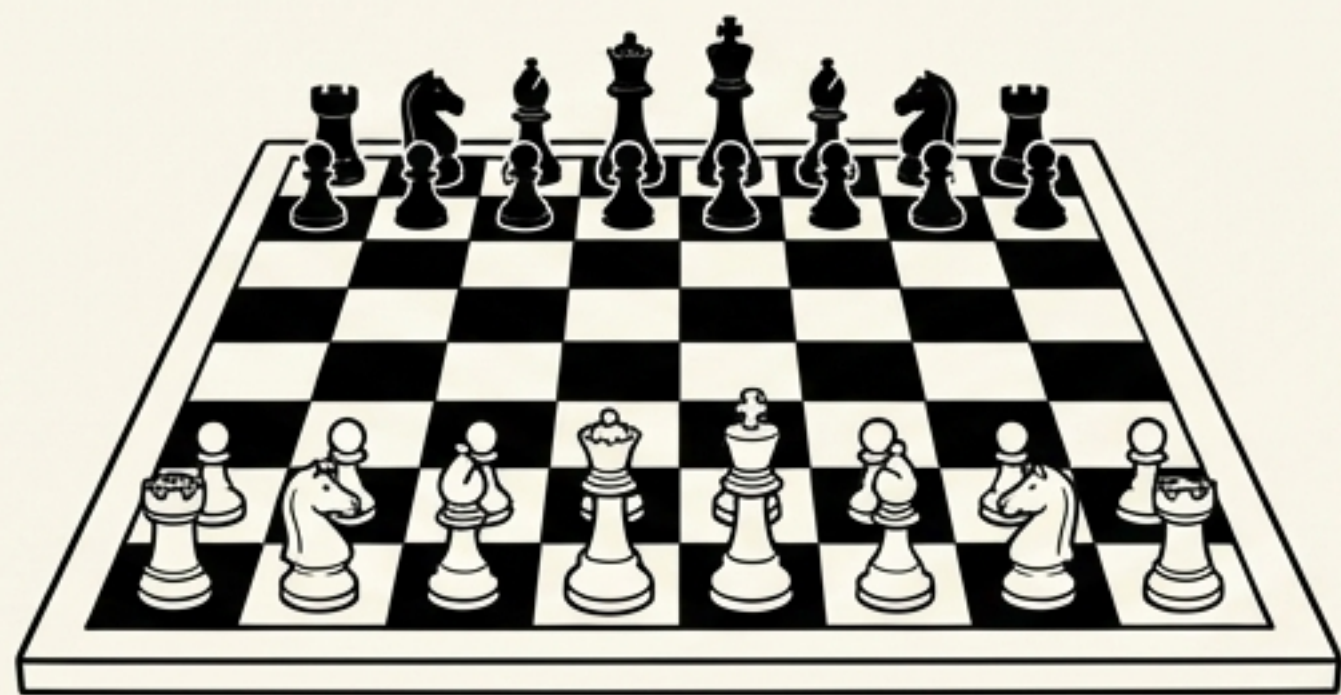
先生は「ゲーム理論」という秘密の考え方を教えてくれました。

テレビゲームの話じゃないよ！

それは、「相手は、どう考えるかな？」と、相手の気持ちを考えるための道具だったのです。

「本当のゲーム」は「本物の生活」のこと

チェス



本物の生活



ゲーム理論を考えたすごい人は、こう言いました。

「チェスは、正しい手が決まっているから、本当のゲームじゃない。本物の生活はちがう。相手をびっくりさせたり、相手の考えを想像したり…。それこそが、本当のゲームなんだよ。」

冒険で見つけた3つの「考える道具」

先生は、長い長い冒険の旅で、世界を理解するための、
すごい「考える道具」を3つ見つけました。



ルールで考える道具



見て学ぶ道具

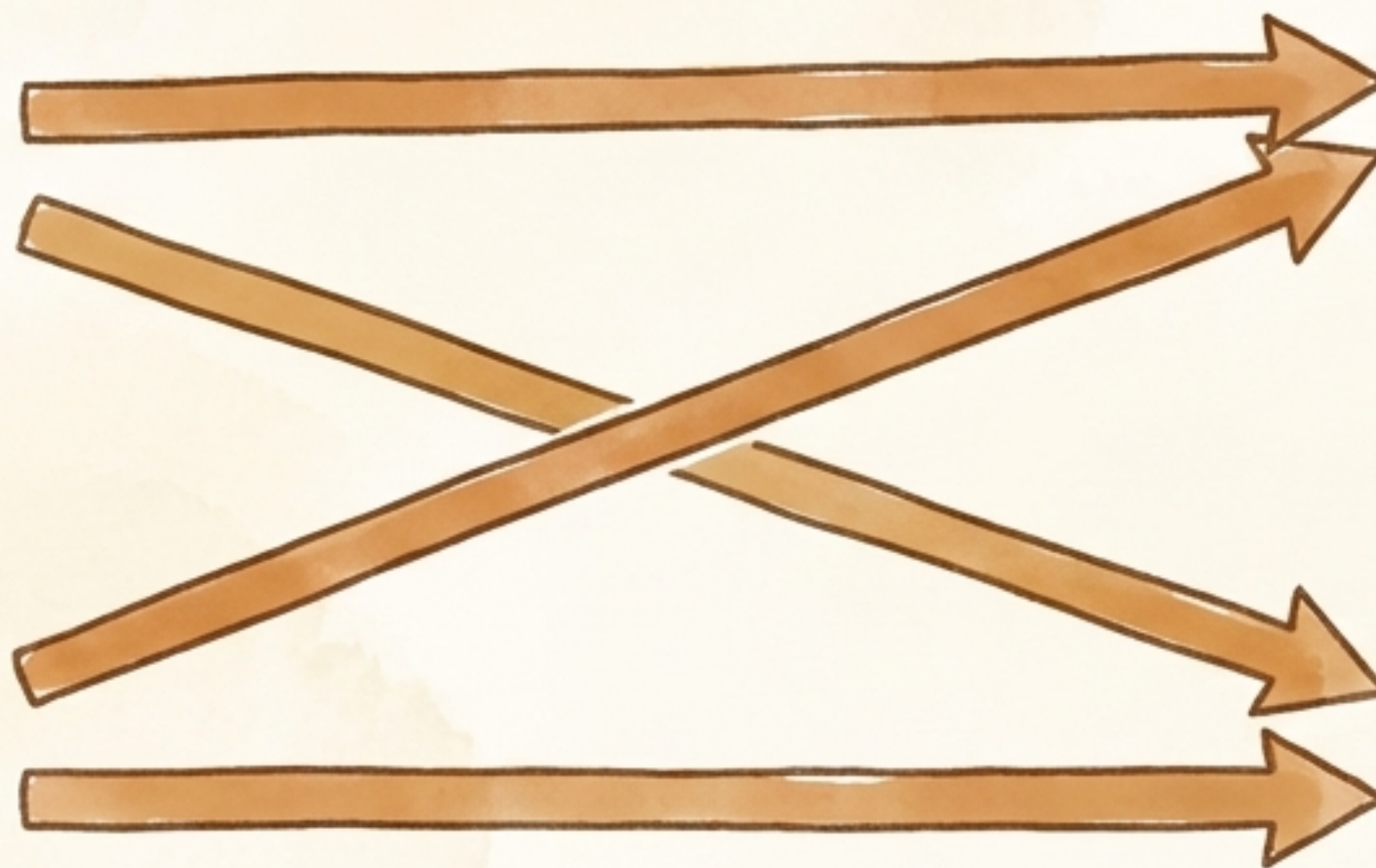


みんなが幸せになる道具



考える道具①：ルールで考える「えんえき」

男の子と女の子が、どこかで会う約束をしました。公園で会えたら、すごく楽しい！図書館だと、まあまあ。もし、ふたりが同じルールを知っていて、相手のこともちゃんと考えたら、どこで会うでしょうか？ もちろん、公園だよね！これが、ルールで考える方法です。



考える道具②：けいけんで学ぶ「きのう」



あるところに、「2さい3かげつです」と答えられる男の子がいました。でも、2さい4かげつになったら、そう言うのをやめてしまいました。どうしてかな？
それは、周りのお兄さんやお姉さんたちがどう答えるかを聞いて、「ちがうんだ！」と新しいパターンを学んだからです。私たちは、世界をよく見て、聞いて、たくさん学んでいるんだね。

いちばん大事な、最後の問い



たくさんの冒険をへて、先生は白髪のおじいさんになりました。
そして、人生でいちばん大きくて、いちばん大事な問いを考えはじめました。
「世界中のみんなが、平和で幸せになるための”たったひとつのルール”はあるのかな？」

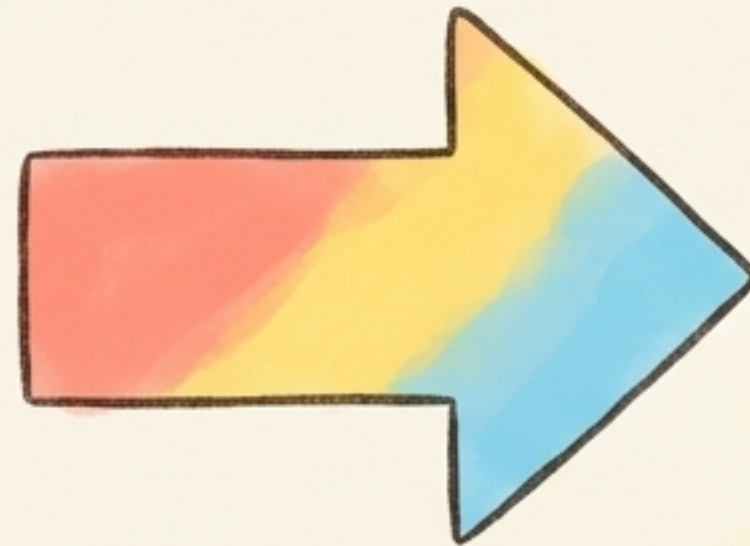
考える道具③：みんなが幸せになるルール

この道具は、むずかしい名前（ナッシュ社会厚生関数）だけど、考え方はシンプル！

1. まず、地球がこわれて、みんなが悲しくなる「最悪のゴール」を想像しよう。「それだけは、ぜったいにイヤだ！」と、みんなで決めます。
2. つぎに、その最悪のゴールをさけて、みんなが少しでもハッピーになれる道を選びつつけます。



ぜったいにイヤ!



こっちをめざそう!

昔のえらい人たちの、すごい考え

先生は、昔のえらい人たちが書いた本からも学びました。ある人は言いました。

「もし社会にルールがなかったら、みんながケンカばかりする『万人の万人に対する闘争』に
また、ある人は言いました。「ルールを決める力（主権）は、王様のものじゃない。
わたしたち一人ひとりのものなんだ！」



ルールがないと、
たいへん！

ルールは、
みんなで決めるもの！



このルール、どうやって使うの？

国と国がケンカしているとき、このルールが役に立ちます。

いちばん大事なのは、そこに住んでいる人たちの「主権」です。

「主権」とは、自分たちの未来を、自分たちで平和に決める権利のこと。
この権利を、みんなで守ってあげることが大切なのです。



冒険の途中の、おもしろい話



いっぱい考えると、頭がよくなるって本当？

先生が外国に住んでいたとき、毎日、英語を話さなければなりませんでした。2年後、日本に帰ってききたら、びっくり！ むずかしい英語の訓練を調整を訓練をしたおかげで、日本語で話したり聞いたりするのも、前より上手になっていたのです。

冒険は、まだつづく

先生は75歳になりました。

でも、世界と人間を理解するための冒険は、まだ終わりません。

「残りの人生も、ずっと考えつづけるよ」と先生は言います。

学ぶことは、終わりのない、素晴らしい旅なのです。



さあ、きみの冒険をはじめよう！

きみは、どんなことに「ふしぎ？」と感じるかな？
どんな大きな問いを持ってみたい？
世界は、わくわくする発見でいっぱいです。
きみだけの大冒険が、いま、はじまる！



ご清聴ありがとうございました

このお話は、金子守先生の「ABCDE研究の道のり」という講義をもとに作られました。

